



# 新しいことに チャレンジする年

## —発想を転換する年—

南魚沼市議会議長 小澤 実

あけましておめでとうございます。市民のみなさまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。また、日頃より市政発展のため多大なるご支援とご協力をいただき、市議会議員一同、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は異常少雪により市内スキー観光、除雪関係において大打撃を受けました。そして、その声が静まる前、2月より新型コロナウイルス感染症により全世界がその猛威にさらされ、現在に至っています。平和の祭典である東京2020オリンピック・パラリンピックが今年に延期となりました。世界の国々では都市のロックダウン、日本でも緊急事態宣言、学校の一斉休校など誰もが経験したことのない状況となりました。また、全世界で出入国に制限がかかり、日本国内の経済も落ち込んでしまいました。

市内でも、インバウンドや旅行者の減少により、さまざまな業種で大変な状況となりました。市議会では、新型コロナウイルス感染症対策連絡会議を昨年4月24日に立ち上げ、これまでに13回の会議を開催し、市民の声を市執行部に伝達した中で施策に反映しているところです。

プレミアム付飲食・宿泊券の発行

や持続化給付金の補助など、新型コロナウイルス感染症対策事業の費用は総額で13億円を超えております。一方、ふるさと納税は好調に推移し、11月末時点で16億2千万円のご寄附をいただき、対昨年比2・1倍となっております。

また、10月より自治医科大学に市民病院を活動拠点とした寄附講座が開設され、2人の医師が常勤医として実診療を行いながら地域医療などの研究を行っております。お二人の就任により、医師不足と言われている地域の医療体制が充実し、市民の安心につながるものと期待しております。

当市の課題として、新ごみ処理施設の建設があります。用地の決定がまだ見られない中、稼働中の炉の維持、修繕に費用がかかります。用地が決定しても、建設から稼働までは長い年月が必要となるため、早期に用地決定をしなければなりません。

南魚沼市議会は、異常少雪、新型コロナウイルス感染症による経済の落ち込みへの対策を提言し、その中で「新しい生活様式」を守りながら、人口減少社会への対応、子育て支援の推進、産業の振興、12地域のコミュニティを中心とした地域活性化などに、全力を尽くして取り組んでまいります。

また、林市政2期目に入り、市長にはトップセールスマンとして南魚沼市のさらなる発展に奔走願います。議会も並走しながら市政課題の解決に向け、しっかりと議論を重ねるとともに、公正で活力ある開かれた議会運営を図り、市民の皆さまの声を的確に反映させるため、議員一丸となつて期待に応えるべく誠心誠意尽くしていく所存であります。市民の皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

それぞれの環境の中で、前を向いて進んでいくことにより、また一歩すばらしい未来に近づけると信じております。

本年が皆さまにおかれまして、幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心よりご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。